

# 茨木市産業振興アクションプラン 改定にかかるワークショップ

【テーマ：連携の促進・活用】

---

## 構成メンバー

野口 義文氏

立命館大学

産学官連携戦略本部 副本部長、研究部 事務部長

植野 光庸氏

北おおさか信用金庫 総合企画部 副部長

北野 文雄氏

北野酒店、JR駅前商店会会長

五寶美奈子氏

茨木ジャーナル

笹井 直木氏

茨木商工会議所 地域支援課長

高石 秀之氏

高石工業株式会社 代表取締役

豊島 眞介氏

追手門学院大学 地域文化創造機構 副機構長

# 「連携の促進・活用」ワークショップ

## 【「連携の促進・活用」のめざすべき姿】

市内産業に関わる多くの人々の連携・交流の促進により、  
活性化された茨木市

## 【期待される効果】

産業活性化につながる基盤の強化 → 事業活動の発展

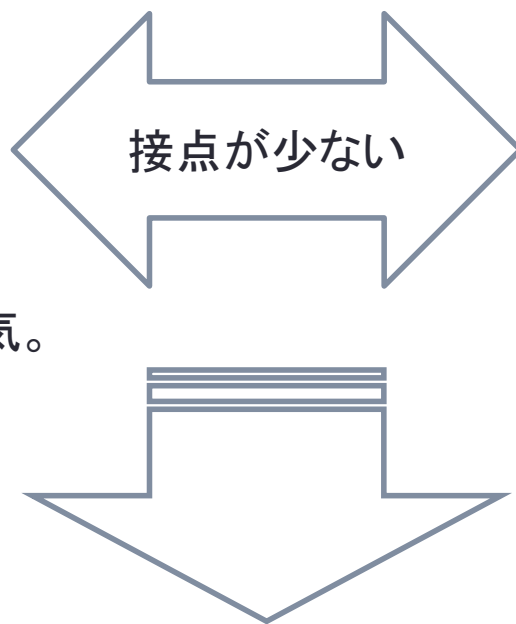
## 【ワークショップの目的】

- ・新たな事業・製品・サービス等の創出のためのヒントを得る
- ・産業を活性化させる基盤の強化のために何をなすべきかの案を探る

# 産学連携についての問題提起

## 【事業者に必要なもの】

- ・自分たちの強みを知る。
- ・課題・やりたいことの明確化。
- ・オープンマインドな姿勢とチャレンジ精神。
- ・研究室のドアをノックする勇氣。



## 【大学に必要なもの】

- ・事業者が相談しやすい雰囲気づくり。
- ・大学の先生を知ってもらう機会の提供。
- ・事業者への歩み寄り。

## 【求められる『場』・『機能』】

- ・事業者が大学と気軽に接することができる場と機会
- ・大学のシーズを噛み砕いて説明してくれる人と場

# 市民や学生についての問題提起

## 様々な情報

イベント、産学連携活動  
おもしろいスポット（お店・観光地 など）  
おすすめの商品・製品 など

発信

広く・効果的に  
発信できている？

## 茨木市にかかわる人々

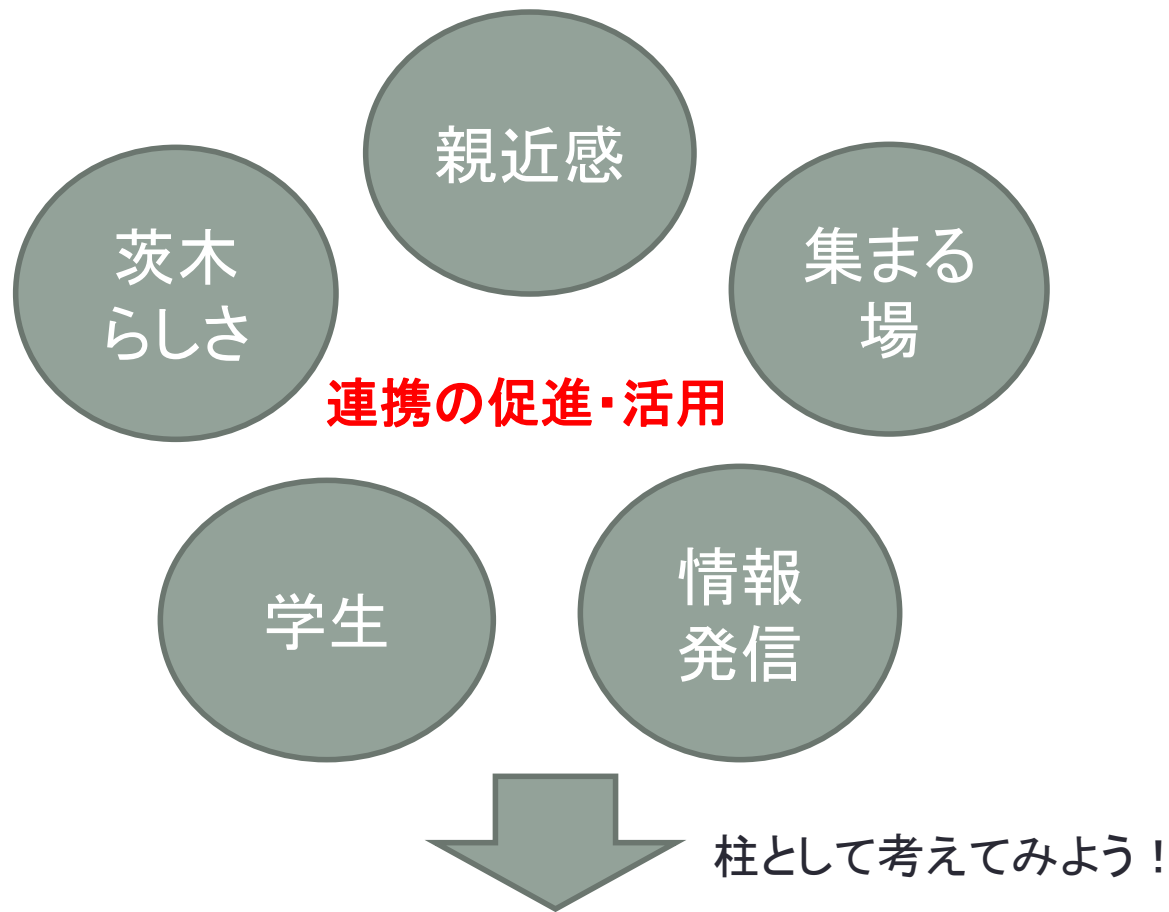
市民、買物客  
学生、通勤者 など

関心層

興味・関心

無関心層

# “大事”キーワードから「連携」を考える



## 商店街の活性化

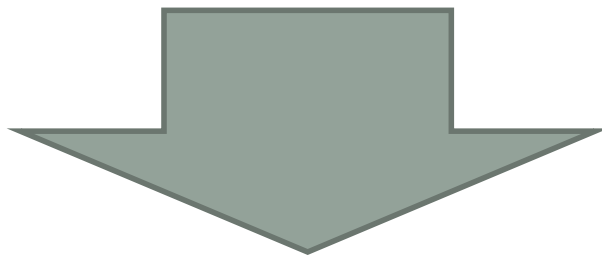
# JR駅前商店会の状況

## <現状>

立命館大学が開学し、学生が増えたが・・・

JR茨木駅までで学生は分断

商店街は通り道にすぎない



## <理想>

**学生の動き(流れ)を商店街まで！**

**学生を軸とした取り組みの展開**

(チャレンジショップ、イベントボランティアなど)

# 商店街に人を呼び込むには・・・

## ◆「情報」で人をひきつける

そこでなければ得られない情報  
個々の「いいもの」を結び付けて発信

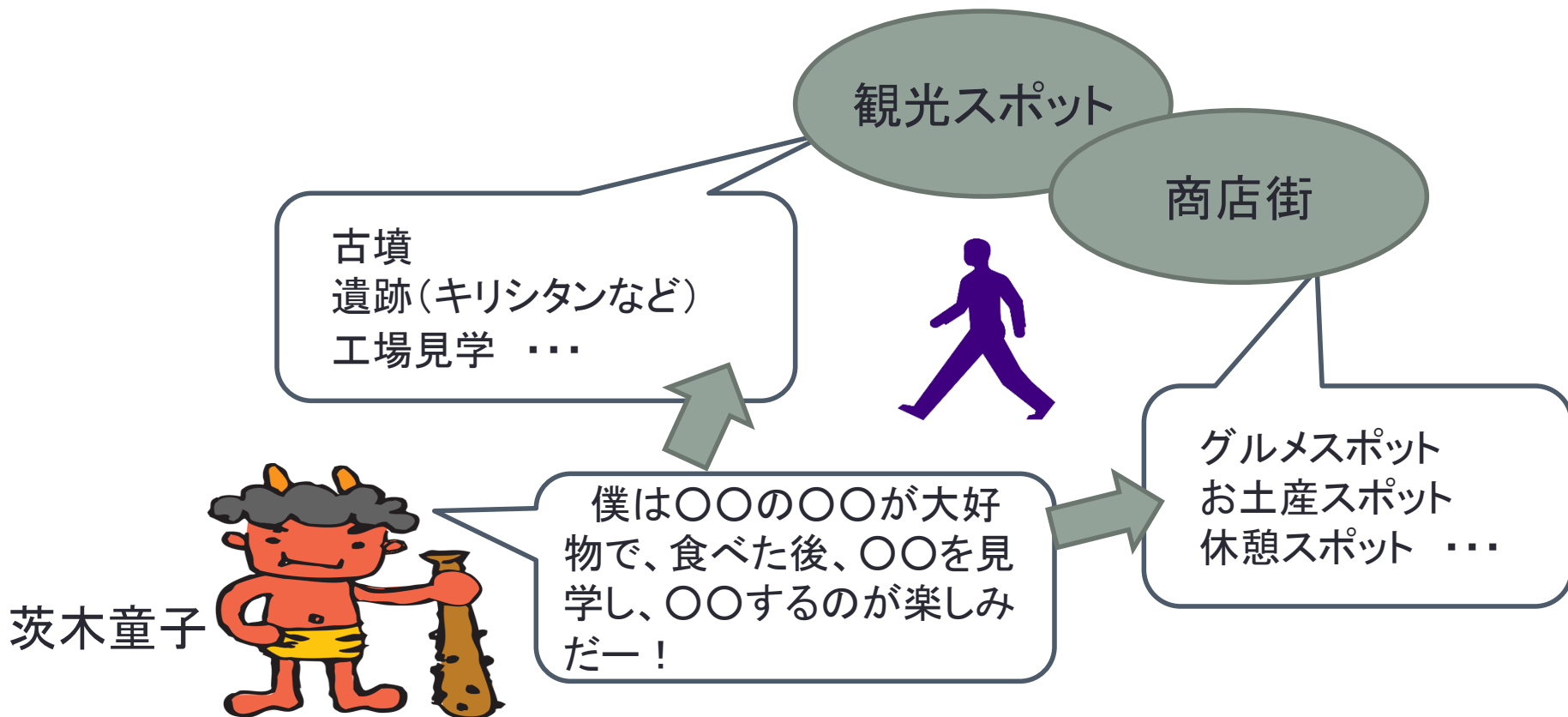
## ◆人が滞留できる「場」の提供

誰にでも分かるスペース  
誰もが入りやすいスペース

まずは、  
市内で周遊し、  
商店街に来てもらう  
ことが必要

## ◆大型店にはない特徴

# 【提案①】 市内を周遊してもらうために… 茨木童子と“語ろう”構想

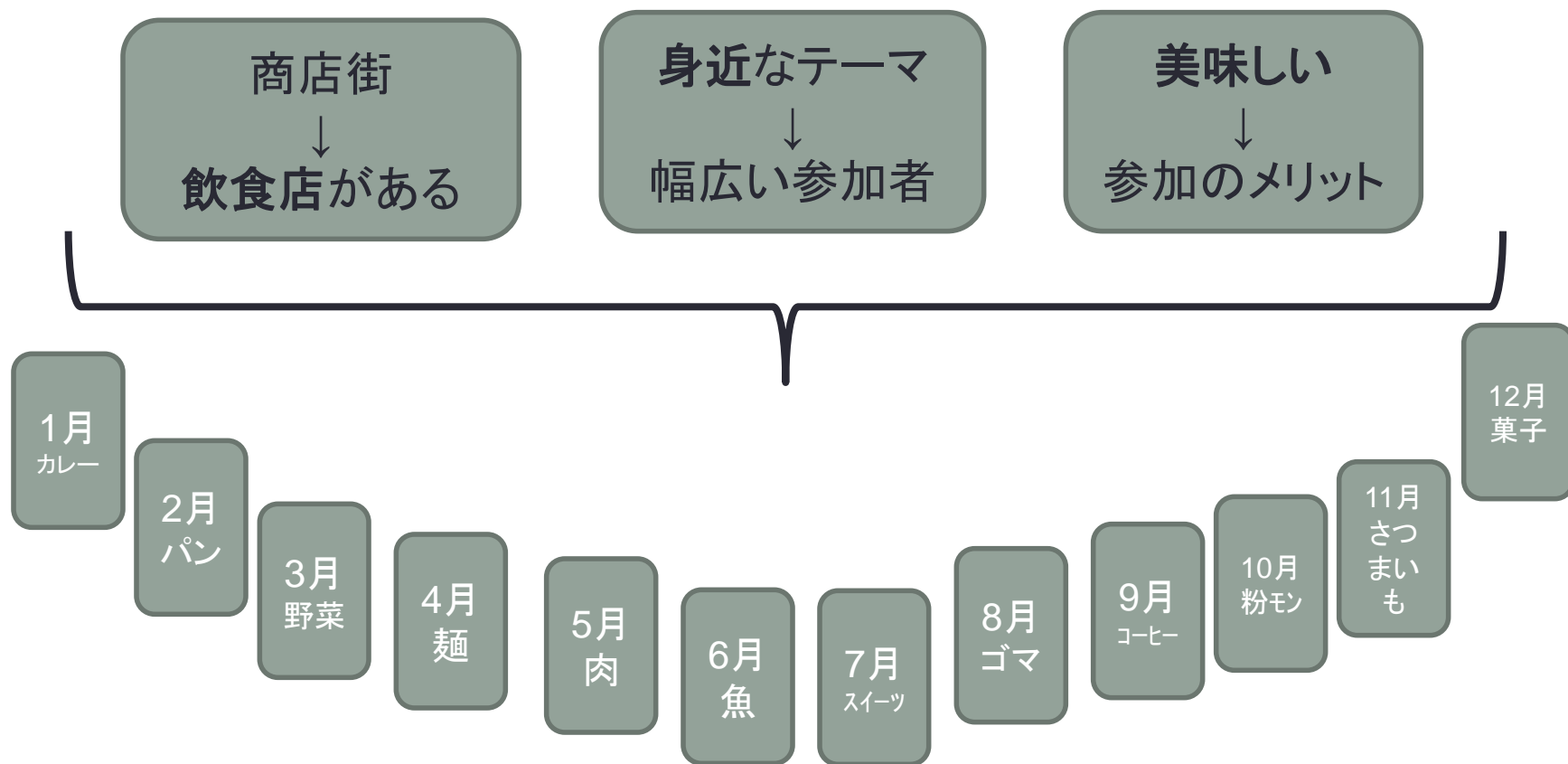


## 問題点

- ・「茨木童子」の活用方法等の整理
- ・人が参加するメリット感が希薄



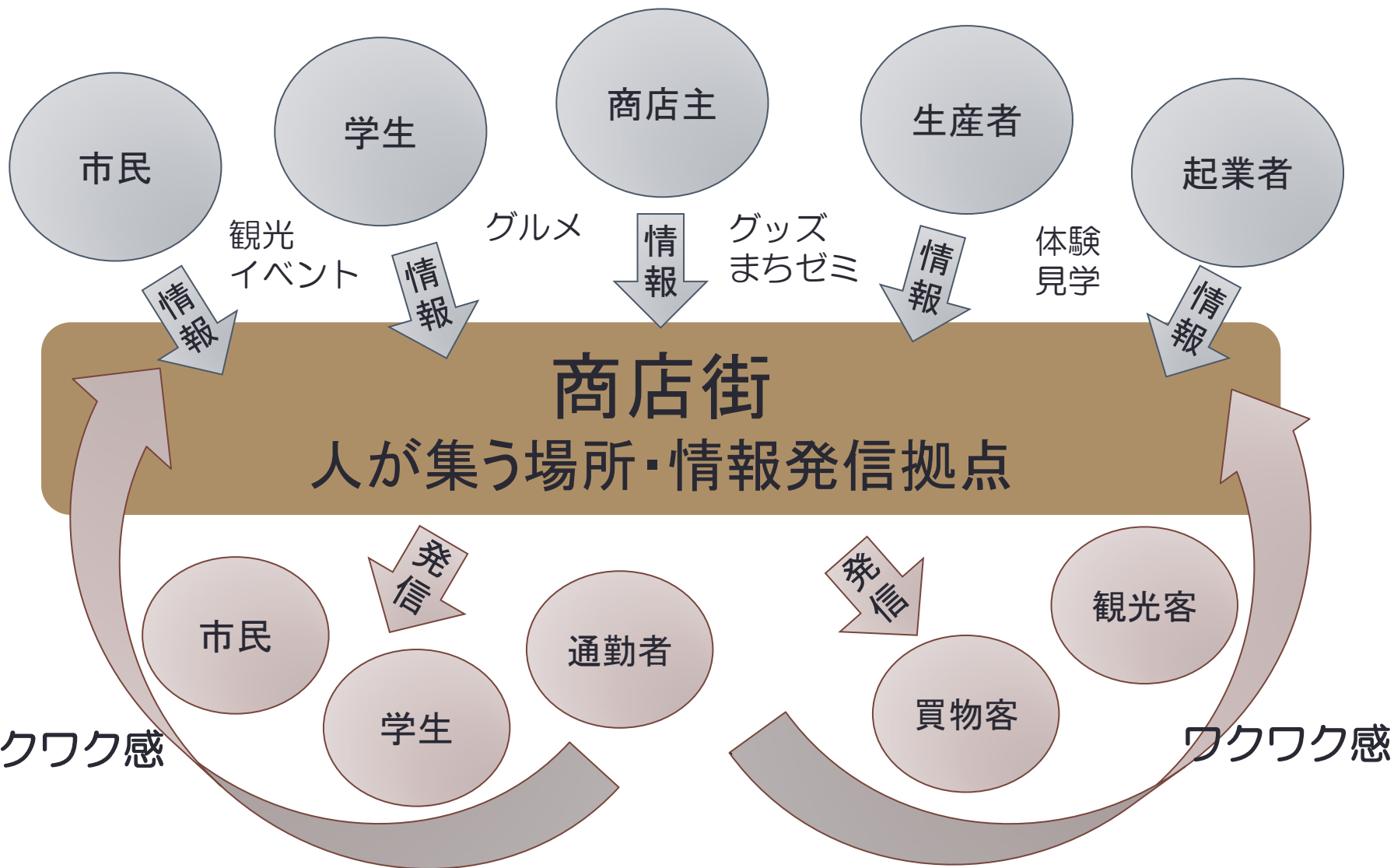
# 【提案②】 参加するメリットを考えて… いばらきグルメ“暦”構想



<事例> スイーツフェア、カレーサミット など

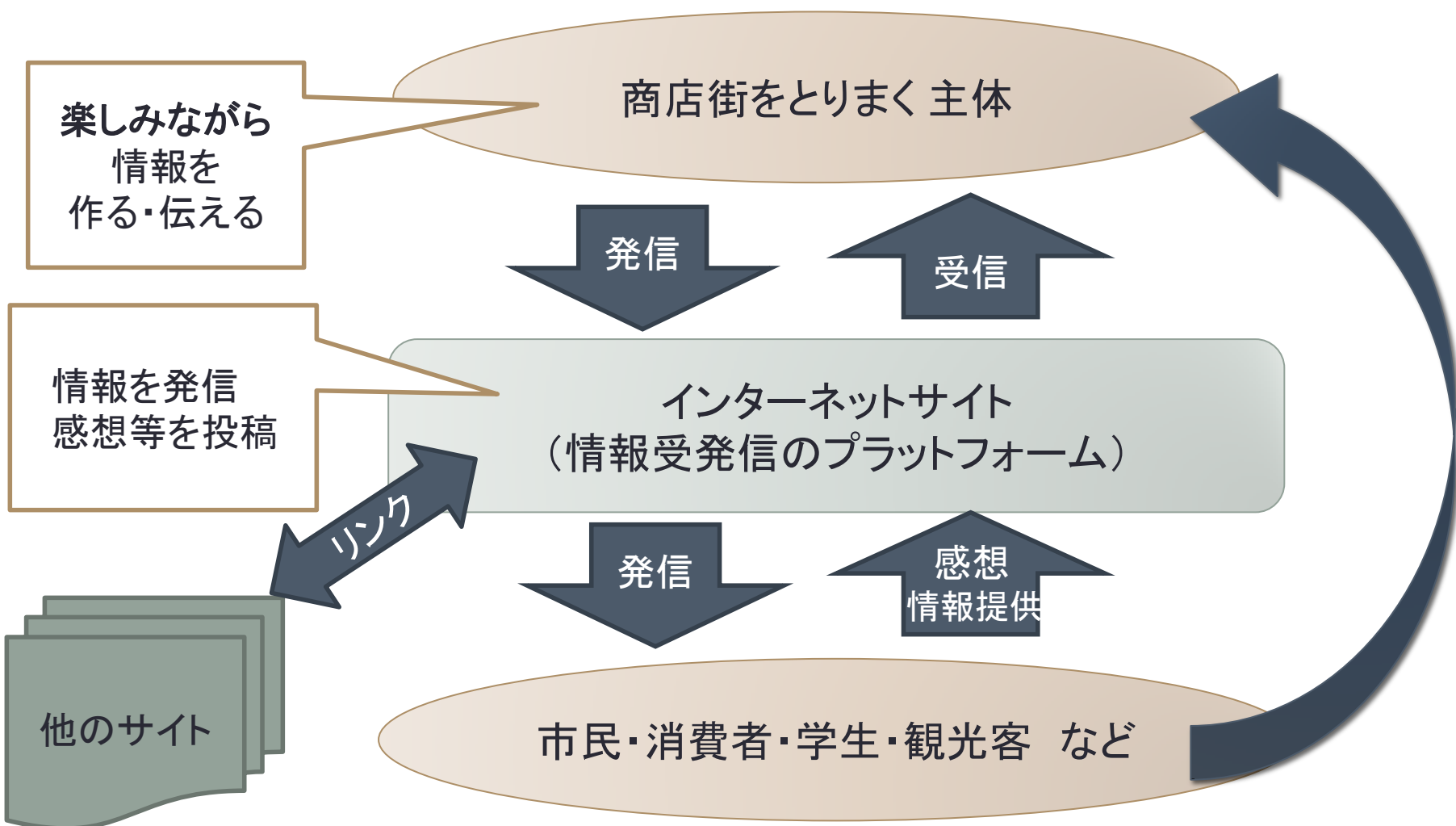
# 【提案③】

## 商店街「まちの駅」構想



## 【提案④】

# インターネットサイトの開設



# 連携を促進するためには・・・

## ◆人が集まる場

人が集まり、つながりが生まれる  
集まった人々がステップを踏んで取組みを進める

## ◆情報が行き交う場

情報を発信することで、ターゲットへ働きかけ  
受信側からのレスポンス

# 連携の促進に向けて 各主体が集まる「場」「機会」の設定

各取組の実施部隊



連携のプラットフォーム

現状把握→課題・目標設定→アイデア出し

楽しく  
参加・参画

事業者

消費者  
市民

支援機関

大学